

被災地方言会話集

— 宮城県名取市 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県名取市

収録日時 2012（平成 24）年 7 月 14 日

収録場所 宮城県名取市植松 館腰公民館

話題 【震災のときのこと】

話者

A	女	1924（大正 13）年	（収録時 88 歳）	[B の友人]
B	男	1924（大正 13）年	（収録時 88 歳）	[A の友人]

話者出身地

A	名取市高柳（タカヤナギ）
B	名取市本郷（ホンゴウ）

【震災のときのこと】

話し手

A 女 1924 (大正 13) 年 (収録時 88 歳)

B 男 1924 (大正 13) 年 (収録時 88 歳)

001B : イヤ ヒンドガッターネア、コノ ジスンネー。

いや ひどかったねえ、 この 地震ねえ。

アンダー ヒエ [1] ニ イダッタノ。

あなたは 家 に いたの？

002A : ウン。オレ イエニ イダノ。

うん。私[は]家に いたの。

003B : オーン。

ふうん。

004A : ホンデ ガダガダナッタガラ、 (B ウン)

それで ガタガタ[と]なったから、 (B うん)

デンキ コー フルマンダヨネ。 [2] (B ウン)

電気 こう 揺れるんだよね。 (B うん)

オッカナクテネー、ハ デデガンネガラ、 ハッシャ ツカンデダッケ、

恐ろしくてねえ、 × 出ていけないから、柱[を] 掴んでいたら、

(B ウン) ムスコヌ ソトサデローツテワッタノ。 (B ウン、アー)

(B うん) 息子に 「外へ出ろー」 って言われたの。 (B うん、ああ)

ホデー、ツッカケ ハイデ デナクテネーモンダドモツテネ、

それで、つっかけ[を]履いて 出なくてはいけないものだと思ってね、

ソトサ デンノ ハダシデ

外へ 出るの[に]裸足で

名取市 自由会話

イガンネーヤロドオモッテ。 [3] (B ウン)
行けないだろうと思って。 (B うん)

ツッカケハクコターネーガラ ソソサデデ、 (B アー)
「つっかけ履くことはないから 外へ出て、 (B ああ)

クルマ ダシタガラ クルマサ ノッテローツテ。
車[を] 出したから 車に 乗ってろ」って。

005B : ハー、ウン。
はあ、うん。

006A : ドーデンシタネヤー、アノ ズスンデワ。 (B ウン) ウーン。
動転したねえ、 あの 地震では。 (B うん) うん。

オレモ クンズーネン エジッケントモ
私も 90年 生き[てい]るけれども

アイナズスン ハンズメデダ。 (B ウン) ウン。
あんな地震[は]初めてだ。 (B うん) うん。

007B : オレ、ワダスノ ズスンワネ、ウーン、バイクデースカー、オレ、クルマサー
×× 私の 地震はね、 うーん、バイクでしか、 ほら、車に

ノレネー نداヤ。メンキョショー ネンダ。
乗れないんだよ。免許証 無いんだ。

デ、バイク、ケー ンアー、ケーデナクテ アノー、ズドーノ アー
で、バイク、軽 ×××、軽じゃなくて あの、自動の あー

008A : ズドーニリン。
自動二輪。

009B : ズドーニリン、ンデネーヤ。アー、ズデンシャバイク [4]。
自動二輪、 じゃないよ。あー、自転車バイク。

名取市 自由会話

010A : アー ズデンシャバイクネ。(B ウン) ウン。
ああ 自転車バイクね。(B うん) うん。

011B : アレスカ ネーンダケド。ダガラ ソレデ、チョーンドネー、ウーン、
あれしか 無いんだけど。だから それで、丁度ね、 うーん、

タカ° ジョーッテユードゴサ イッテキタノ。スオカ° マノ テマエノ。
多賀城っていうところに 行ってきたの。塩釜の 手前の。

ホレデー、ダイタイ イズズハンカ ヌズゴロマデ、エダングナ。(A ウン)
それで、大体 一時半か 二時頃まで、 居たんだな。(A うん)

ホレデー、フツー ホゴノ ヨータスーニ イッタンダゲンドモ、
それで、普通 そのの 用事を済ませに 行ったんだけど、

サンズマデ ゴログニン イダングナー、 ソノー ナガマカ°。
三時まで 五六人 いたんだな、 その 仲間が。

サンズマデ イレバネー、カエレヌ ホノー アラハマーダノ (A ウン)
三時まで 居ればね、 帰りに その 荒浜だの (A うん)

アズグラサ (A ウン) ブツカッタモンネ。(A ウンウン、ウン) ツナミニ。
あそこらに (A うん) ぶつかったもんね。(A うんうん、うん) 津波に。

012A : ナカ° サッタガモシンネーオンネ。
流されてたかも知れないよね。

013B : カンゼンニ ナカ° サッ (A ウン) テルネ。トゴロカ° ネー、
完全に 流され (A うん) てるね。ところがね、

チョード ヌズコロヌネー、アルオンナノシトカ° ー、
ちょうど 二時頃にね、 ある女の人が、

オライノホー オー オハガガ (A ウン) コッチノ、
私の家の方 ×× お墓が (A うん) こっちの、

名取市 自由会話

センダイノヒトカ° ネ (A ウン) コツツノホーニ
仙台の人がね (A うん) こっちの方に

オハガカ° アルンデ、キタツイデニ オハガマイリ シテインカラ、
お墓が あるので、来たついでに お墓参り[を] していくから、

オラ ス スコス ズガン ハエゲンドモ ケッテイ、
私 × 少し 時間[が]早いけれども 帰っていい、

オハガマイリ シッカラッテ フターリバリネ、
お墓参り[を] していくからって 二人ばかりね、

チョード エク° ドギ、カエッタノ。
ちょうど 行く時、 帰ったの。

デ、サンカ° ズダガラネー、 (A ウン) マダ サムイデショー。 (A ウン)
で、三月だからね、 (A うん) まだ 寒いでしょう。 (A うん)

ヨル、ユーガダ (A ウン) オソグナルト。
夜、 夕方 (A うん) 遅くなると。

デ、オレモー イマカラ バイクデ カエッテエク° ンダゲドモ、
で、俺も 今から バイクで 帰って行くんだけども、

ウ オノ オレモ ツイデニ ンデー ミンナ タッタトギー
× ×× 俺も ついでに それじゃあ 皆[が] 発った時[に]

ツイデニドオモッテ タッテ カエッタノ。 (A ウン)
ついでにと思って 発って 帰ったの。 (A うん)

バイクデ。ユックリド キタ。
バイクで。ゆっくりと 来た。

ホーシテ キたらバ、ウーン、シコージョーオ スキ° デ、
そうして 来たら、 うーん、飛行場を 過ぎて、

名取市 自由会話

ホシテー カウツァ [5]、ニッサ ノボツテネー、
そうして 川内沢[を]、 西に 上ってね、

アノー インターンドゴロサ。(A ウン)
あの インターのところ。(A うん)

アズグンドゴロ ワダッテ、カウツァオ ワダッテ、
あそこのところ[を]渡って、 川内沢を 渡って、

コー ヒーサ カエルンダゲンドモ、チョード カウツァ アダリノ
こう 家に 帰るんだけど、 ちょうど 川内沢 あたりの

ハシオ ワダッタ。カワノ ハスオ (A ウン)
橋を 渡った。川の 橋を。(A うん)

ホシテ チョット スゲダラバ、ガダガダガダーットナッタノ、
そして ちょっと 抜けたら、 ガダガダガダーっとなったの、

ケツァネ。(A ウン)
尻がね。(A うん)

ハー、マダコレー ウッショノ タイヤ (A ジョヨシ) パンク
ああ、またこれ 後ろの タイヤ (A ××××) パンク

(A パンク) シタナードオモッタ。(A ウン)
(A パンク) したなと思った。(A うん)

ンデ ガダガダト ナッタン (A ウン) ダド オモツテネー。
それで ガダガダと なったん (A うん) だと思っ
てね。

ヨグ ソレダガラ ハスランネーガラ チョット ヨヒエデ、
よく それだから 走れないから ちょっと 寄せて、

アソ ツイダンダワ。ダーント ヒックリゲーッタノ。(A ウン)
足を 着いたんだわ。ダーんと ひっくり返ったの。(A うん)

名取市 自由会話

ホースルト タッテランネノネ、 アス ツイダノニ トマッテランネ。
そうすると 立ってられないのね、足[を]着いたのに 止まってられない。

トゴロカ°、ズスン ワカンネーダ。(A ウン)
ところが、地震[だと]分からないんだ。(A うん)

ヒックリゲッターミダッケー、ホノー インターノ、カンバンカ°
ひっくり返って見たら、 その インターの、看板が

ガラガラガラード ヤッテンダッチャー。(A ウン)
ガラガラガラと なってるんだよ。(A うん)

デ カラダモ ウコ° イデンダ。 アノトギ (A ウン) ズスンデ
で 体も 動いているんだ。 あの時 (A うん) 地震で

コレー、 ハスランネグナッタンダナードオモッテサー。
これ[は]、走れなくなったんだなあと思ってさ。

デ スンバラグ ズスンオ、ウン、ナオ ウーン、(A オサマル) スエ
で しばらく 地震を、 うん、×× うん、(A 収まる) ××

オサマルマデ ホゴデ ケツ ツイデ イダンダゲンドモ。
収まるまで そこで 尻[を]ついて 居ただけけれども。

コンナヌ ツオイズスンデワ オライノイエ [6] ガダガダダーノヒエダガラ、
こんなに 強い地震では 俺の家[は] ガダガダな家だから、

カンゼンニ ヒックリゲッテルワナー (A ウン) ド オモッテサー。
完全に 倒壊しているわなあ (A うん) と 思ってさ。

(A ウン) コンド スンペーデ、
(A うん) 今度[は]心配で、

エー、ホーダゲンドモ ヤッパリ ドーロ ホダニ イダンマネ (A ウン)
えー、そうだけでも やっぱり 道路[は]そんなに 傷まない (A うん)

名取市 自由会話

イダンデネーダ、カンボツシテネーダツチャネー。(A ウンウン、
傷んでないんだ、陥没してないんだよね。(A うんうん、

ウンウン) スッスード キタツケー、マズ イズバンサイシヨ
うんうん) すいすいと 来たら、 まず 一番最初[に]

Xクンノヒエ ミエツカラ、(A ウン) マズ ナンデモネーナ。
X君の家 見るから、(A うん) まあ 何でもないな。

デ オライノズッカ [6] スク° ミエダガラ、(A ウン) マワツター、
で 俺の実家[が] すぐ 見えたから、(A うん) 回って、

ホゴモ ナンデモネー。
そこも 何でもない。

ヒェサ キテミダラバ、ヒエモ ナ チャント タツテツケントモ、
家に 来てみたら、家も × ちゃんと 建ってるけれども、

アンブラカンカ°、ヒックリゲツテ。タンク。(A ウン)
油缶が、 ひっくり返って。タンク。(A うん)

ホデ パクパツコンブグブグド。
それで パクパツコンブクブクと。

014A : アブラ デデンダワ。(B マズ) ナカ° レッタノ。
油 出てるんだ。(B まあ) 流れてたの。

015B : ウン、ナカ° レッタノ。
うん、流れてたの。

ホデ ガガサンカ° イツシヨケンメヌ、アノ、
それで 奥さんが 一生懸命に、 あの、

ハツポースチロールダガ ナンダガ モテシテネー、
発砲スチロールか 何か[を] 持ってきてね、

名取市 自由会話

コー スタサ エンデ、シー フィッツァ
こう 下に 置いて、んー そいつに

タマ タメッタンダツケワネ。(A ウンウンウン)
×× 貯めてたんだよね。(A うんうんうん)

ゼンブ ナカ° レダ^ンダワナ。マンタンヌ スッタンダ。(A ウン)
全部 流れたんだよな。満タンに してたんだ。(A うん)

ホンダガラ ホレ、ヒックリゲッタンダナイ。
それだから ほら、ひっくり返ったんだな。

デ、ホイズ オデッテシテ。
で、それ[を] お手伝いして。

ウーン、ホーシタラバ、マ^ンズ テレビワ ナイ、
うーん、そうしたら、まず テレビは 無い、

デンキワ ツケ^ナイデシヨ^ー。(A ウーン、ウン ウン)
電気は つけないでしょう。(A うーん、うん うん)

コンド ナンノジョ^ーホ^ーモ ワガンネワケダ。
今度[は]何の情報も 分からない訳だ。

チョード ラ^ンズオカ° ドコサ オイッタンダガ、ナンボモアル ラズオ。
ちょうど ラジオが どこに 置いてたんだか、何個もある ラジオ。

ニワガダモンダカラ、マー ミッケランネクテ。
急なものだから、まあ 見つけられなくて。

ダッテ ジョ^ーホ^ー ナンニモ ワガンネ^ー。
だって 情報[が] 何も 分からない。

ソノマンマ、ローソグオ ツケ^ナカ° ラ、
そのまま、蠟燭を 点けながら、

名取市 自由会話

ホラ ヨスンカ° ショッチュー アッタガラネ。(A ア一)
ほら 余震が しょっちゅう あったからね。(A ああ)

ヒトバンズー ヨスン アッタ。オレ ホンデモ フット トゴサ
一晩中 余震[が]あった。俺[は]それでも ふっと 床へ

へーッテ、ネムリワ セネガッタゲドモ トゴサ
入って、 眠りは しなかったけれども 床へ

ヘッテイダンダ。スク° ニ デデアサグノニ。キタマンマネー。
入っていたんだ。すぐに 出歩くのに。 [服を]着たままね。

ウーン。ダガラ ウジノヒトカ° ローソグ ツケナカ° ラ、マー ネー
うん。 だから うちの人が 蝋燭[を] 点けながら、 まあ ねえ

ココラヘン ミデ ガンバッテイダンダナー。(A ウーン)
ここら辺[を]見て 頑張ってたんだな。(A うん)

ホーステ ツナミカ° ワガンネガッタんだナ。
そうして 津波が 分かんなかったんだな。

ソーユー ジョータイダガラ。(A ウーン) テレビモネー。
そういう 状態だから。(A うーん) テレビもない。

016A : アノドギデ ツナミ クルナンテ アンマリ サワカ° レテ
あの時って 津波[が]来るなんて あんまり ×××××

サワカ° ッテネーダモンネ。
騒がれてないんだもんね。

017B : オラホーモ ア一ユ一 ホ ジョーホーモ ナヌモネーガラ。(A ウーン)
俺のところも ああいう × 情報も 何も無いから (A うーん)

ホステ ツギノヒノ アサ ミダッケ、タンボ ミダッケ
そうして 次の日の 朝 見たら、 田んぼ[を]見たら

名取市 自由会話

マッシロダンベア。(A ウン)

真っ白でしょう。(A うん)

マー スオミズ キテンダ。

まあ 潮水 来てるんだ。

ホーシタツケ コンドワ ナーヌ、ランズオ キーダヒトノ

そうしたら 今度は 何、 ラジオ[を] 聞いた人の

ハナシ キクト、ドコソレカ° ユ ユリアケ° カ°、ドーナ コーノ

話[を] 聞くと、何処どこが × 閉上が、 どうのこうの

(A ウンウン) キタカ° マカ°、ドノクリー ヤラッタノ、 ネー。

(A うんうん) 北釜が、 どのくらい やられた[だ]の、ねえ。

ダンダンド ワガッテキタンダゲンドモ。オレモ アブナグ、

段々と 分かってきたんだけど。俺も 危なく、

モー イズツカン エレバ、アノ アラハマアダリ ノ (A ウン)

もう 一時間 居れば、あの 荒浜辺り の (A うん)

ヒー ナカ° サッタドゴヌ、アズグ トールヨーナツツアガン、ネー。

家[が] 流されてたところに、あそこ[を]通ることになってたから、ね。

マー、ニジューサンネンノ、サンカ° ズジューイズヌズノ、ジョータイワ、

まあ、二十三年の、 三月十一日の、 状態は、

ソナユー ジョータイデネー。スカス アレガラヤー、ナンーカイモ、

そのような 状態だね。 しかし あれからさ、 何回も、

ツナミカ°、ンデネ、 ツナミワ コナイゲンドモ (A ヨスン)

津波が、 じゃない、津波は 来ないけれども (A 余震)

ヨスンカ° ネー。

余震がね。

名取市 自由会話

018A : ウン、ウン。デモ コーユ一、コーユ一 オッキー ズスント
うん、うん。 でも こういう、こういう 大きな 地震と

ツナミ、 ダデーマサムネーズダイニモ アッタンダドネ。
津波[は]、伊達政宗[の]時代にも あったんだってね。

019B : アッタンダ。 (A ウン) ウン。
あったんだよ。(A うん) うん。

020A : ンダガラ ナンビャグネンニ イッカイ。
だから 何百年に 一回。

021B : ウン。ンダネ。
うん。そうだね。

022A : コノヘン ソ ソノアダリ、コノヘン ウミダッタンダズガラ。(B ウン)
この辺 × その辺り、 この辺 海だったっていうから。(B うん)

ウン。ダガラ ソゴニ ホラ、メデシマドガ カサスマツツードゴ
うん。だから そこに ほら、愛島とか 笠島っていうところ[が]

アンノ、チメー。 ホゴ シマダッタンダッテ。
あるの、地名[で]。そこ[は]島だったんだって。

宮城県名取市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 ヒエ

話者Bは家を「ヒエ（ヒー）」と発音しているが、話者Aには見られない。60代の名取出身者に聞いたところ「（ただの）息漏れ」と判断された。ただし、これ以降も安定してこの形が出てくること、県南ではヤ行の音が摩擦化しジャ行になることも考え合わせると、摩擦化したものが無声化しているとも考えられ（イエ（イエ）>ジエ（ジェ）>ヒエ（ヒェ））、方言的特徴の現れである可能性がある。

〔2〕 フルマンダヨネ

直訳としては「振り回るんだよね」か。

〔3〕 イガンネーヤロドオモッテ

「イガンネーダロ（一）ドオモッテ」と言おうとしたものと思われる。

〔4〕 ズデンシャバイク

自転車バイク。原動機付き自転車のことを指していると思われる。

〔5〕 カウツツァ

川内沢川。名取市を流れる。

〔6〕 オライノイエ、オライノズッカ

オライが「我が家」であり、「家」の部分が重複するように思われるが、特にここでは家屋を指すため、イエ（ズッカ）をつけて限定している。

宮城県名取市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
王 卓（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）
町田 隆弘（東北大学文学部 3 年）
櫛引祐希子（追手門学院大学講師）

文字化担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
町田 隆弘（東北大学文学部 3 年）
田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）